

**社会資本整備総合計画 事後評価
(野田村)**

平成28年5月

社会資本総合整備計画事後評価書

平成 28年 5月

計画の名称	27 通勤・通学の安全確保及び 経済活動の基盤づくり									
計画の期間	平成22年度～平成26年度(5年間)			交付対象	野田村					
計画の目標	安全・安心に暮らせる地域社会を形成する基盤づくり 一人ひとりが安心して暮らせる地域の形成と通学の安全確保を図るため、安全で快適な地域を形成する基盤づくりを行う。									
計画の成果目標(定量的指標)	快適で安全・安心な地域社会を形成する基盤づくり ・道路の機能を保全するために対策が必要な箇所の整備率									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値	備考					
				当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)				
				27	100	100	27-A1域内二又線に適用、数値が小さくなるに比例し、整備延長が伸びたことを示す。			
				97	85	75				
				0	100	100	要対策箇所数=路線数			
				25	75	100	対策済箇所数=整備完了路線数			
全体事業費	合計	213百万円	A	209百万円	B	0百万円	C	4百万円	効果促進事業費の割合	1.9%
	(A+B+C)	206百万円		203百万円		0百万円		3百万円	C/(A+B+C)	1.5%

事後評価

事後評価の実施体制・実施時期	事後評価の実施時期	平成28年5月
事後評価の実施体制	公表の方法	野田村ホームページにて公表
本事業を所管する地域整備課で数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、評価を実施した。		

1. 交付対象事業の進捗状況

A 基幹事業(道路事業)										上段：計画					下段：実施	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
27-A1	道路	一般	野田村	直接			改築 (1) 域内二又線	現道拡幅 L=1.1km	野田村						180	
								現道拡幅 L=1.18km							170	
27-A2	道路	一般	野田村	直接			修繕 (1) 松川線	路肩改良 L=100m	野田村						3	
								路肩改良 L=100m							3	
27-A3	道路	一般	野田村	直接			修繕 (他) 土内線	路肩改良 L=330m	野田村						9	
								路肩改良 L=330m							12	
27-A4	道路	一般	野田村	直接			修繕 (1) 館公園線	路肩改良 L=570m	野田村						17	
								路肩改良 L=570m							18	
											合計	209				
												203				

B 関連社会資本整備事業										上段：計画					下段：実施	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
											合計					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業										上段：計画					下段：実施	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
27-C1	計画・調査	一般	野田村	直接	野田村	計画・調査	橋梁長寿命化修繕計画策定事業	橋長15m以上の長寿命化策定計画	野田村						4	当初計画
											合計	4				
												3				

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
27-C1	橋梁の長寿命化計画の策定を行い、経済活動の基盤となる道路の橋梁補修を計画的かつ効率的に実施することにより、快適で安全・安心な通行を確保する。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

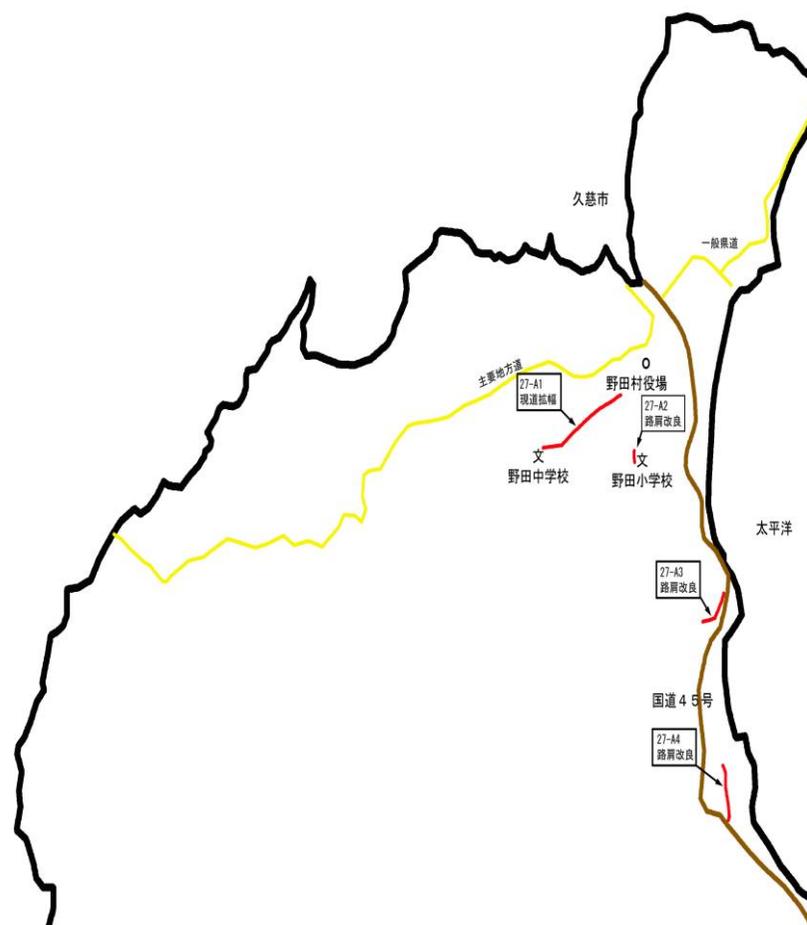
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 1級村道域内二又線の現道拡幅及び歩道新設を実施した結果、歩行者の安全と円滑な走行の確保が図られた。 1級村道松川線の側溝修繕を実施した結果、実幅員の拡幅となり、歩行者の安全と車両の円滑な走行の確保が図られた。 その他村道土内線の側溝修繕を実施した結果、実幅員の拡幅となり、車両の円滑な走行の確保が図られた。 1級村道館公園線の側溝修繕を実施した結果、実幅員の拡幅となり、車両の円滑な走行の確保が図られた。 				
II 定量的指標の達成状況	指標(計画整備路線の整備率)	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> 定量的指標の算定方式において、時間短縮率の捉え方が異なっていた。走行時間短縮は分子が小さくなるので、整備に伴って数値は小さくなる。 中間目標値の差は、東日本大震災により一時事業実施が困難となり後年度にずれ込んだことによる。
		最終実績値	100%		
			100%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)	事業実施路線は、通勤・通学に利用される主要な路線であり、整備に伴う所要時間の短縮や歩行者、通行車両ともに安全性が向上した。				

3. 特記事項

時間短縮率を定量的指標にするには、以下の算定式を用いる必要があった。
 (時間短縮率) = [(整備前走行時間 - (整備済延長走行時間 + 未整備延長走行時間)) / (整備前走行時間 - 整備完了後走行時間)] × 100

(参考図面)

計画の名称	27 通勤、通学の安全確保及び、経済活動の基盤づくり	交付対象	野田村
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)		



歩道が整備され歩行者の安全と車道の拡幅による円滑な走行の確保が図られました。

蓋掛け側溝に修繕され、実幅員の拡幅となり、歩行者の安全と車両の円滑な走行の確保が図られました。

蓋掛け側溝に修繕され、実幅員の拡幅となり、車両の円滑な走行の確保が図られました。

蓋掛け側溝に修繕され、実幅員の拡幅となり、車両の円滑な走行の確保が図られました。

整備前

整備後

